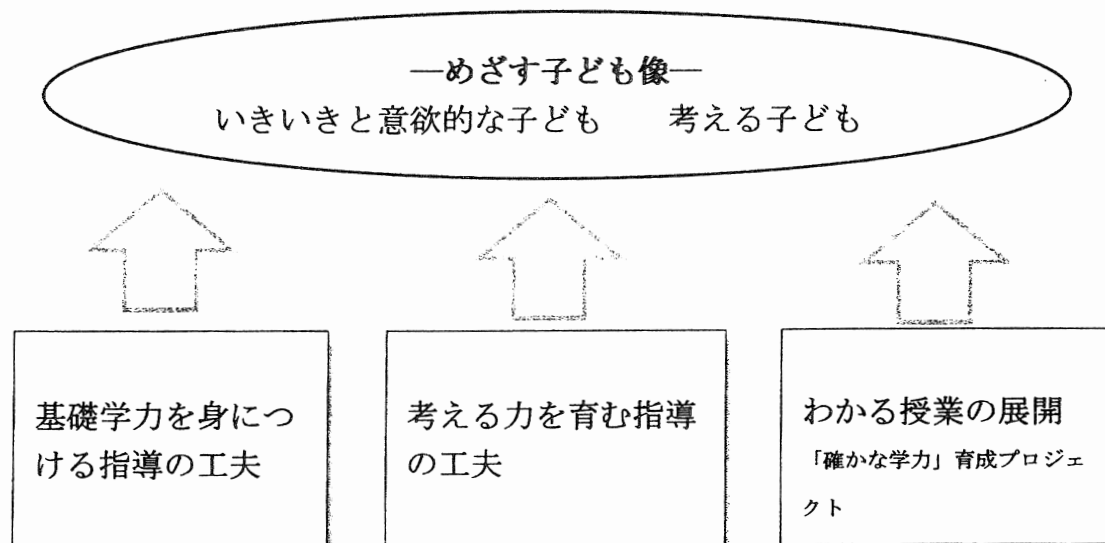


いきいきと学びをつくる子どもの育成

～ 算数科を通して、考える力を育む授業づくり ～

I 研究の内容 (3つの柱をもとに研究に取り組む)



1 【基礎学力を高めるための具体的な工夫や手立てについて】

(1) 朝学習の充実

- 朝学習に取り組む。算数は2日以上。1日は読書
- 10分で取り組めるもの。算数は基礎計算などポイントを絞る。

(2) 自主学習について

- 自主的な学びを育むために自主学習ノート「松小☆かがやきノート」をスタート。
低中高に分かれて自主学習メニューを作成 (具体的な学習内容の紹介)
基礎学力の定着のために、家庭も巻き込んでいく。家庭向けの通知配布。

2 【考える力を育む指導の工夫や手立てについて】

(1) 学習課題の提示導入の工夫について

- ・身近な問題に置き換え、どの子にも興味関心が広がり互いに考えが深められるよう工夫をする。
- ・考えようとする導入の工夫 (視覚化、具体物を提示)

(2) 考える場面 自分の考えを持つ (理由・根拠)

- ・自分で考える習慣をつけるように、できるだけ自力解決の時間を設定した流れを設定。
- ・理由・根拠を問いノートに考えを書く。経験を通して育む。

(3) 考える手立て (図、絵、言葉 相違点・共通点)

- ・具体物や半具体物を図や式に置き換える活動体験から感じ取ったことを言語化する。
- ・疑問を抱かせたり試行錯誤の場面を取り入れたりする。(既習の知識を使って問題解学習をする。)

3【わかる授業の展開 研究授業 「確かな学力」能力プロジェクト 授業の構造化 Q-U分析】

(1) 第4学年 算数科研究授業 「およその数の表し方を考えよう」 中村 伸也 教諭

〈単元目標〉 概数について理解し、目的に応じて、概数を用いたり四則計算の見積もりをしたりすることができるようにする。

目的に応じた概数の表し方やそのよさについて、身近な買い物の場面から理解を深めることをねらった授業実践。買ったものの金額からその概数を予想させ、四捨五入、切り上げ、切り捨ての概数の3つの方法について気付かせ、その目的やよさについて集団で話し合う展開であった。

黒板での掲示物、ワークシート、既習事項の掲示（豆知識）などが子どもの集中力や思考を引出し、グループ活動を支えるために有効であった。

(2) 第2学年 算数科研究授業 「かけ算（1）新しい計算を考えよう」 小河 真由美 教諭

〈単元目標〉 乗法の場面をおはじきや式で表す活動を通して、乗法の意味の理解を確実にする。

半具体物の「おはじき」での操作活動を取り入れる中で、かけ算の意味や式についての理解を深めることをねらった授業実践。

$\boxed{\text{一つ分}} \times \boxed{\text{いくつ分}} = \boxed{\text{全部の数}}$ かけ算の立式やその意味を、既習事項として子どもから引き出す形でしっかり確認されたことで、子どもたちは操作活動に意欲的に取り組むことが出来た。

おはじきでの操作活動は、一人一人の思考過程が明確になり、ペアでの説明（ペア学習）も行いやすく理解を深めるのに有効であった。また、友だちのおはじきを見て、式を導き出す活動は、カードの工夫により子どもたちの意欲を引き出す魅力的な活動となった。

II 成果と課題

- ・「基礎学力」を身に着けるために、朝学習で国語と算数の2教科絞りこんで進めた。また、学びに向かう意欲や習慣化を図るために、「松小☆かがやきノート」と題して自主学習ノートに取り組んだ。スタートするに当たり、自主学習メニューを低中高で作成し、多様な学びになるよう配慮した。
- ・「考える力」を育むための、場と時間の確保、操作活動、図や式、言葉など多様な表現に取り組むことができた。学習課題を理解して自分の考えを持つには、既習学習が大切である。子どもと教師の間からしっかりと確認できることが、授業での課題解決の大きな手立てになることが確認できた。
- ・「いきいきと学びをつくる子どもの育成」心を動かして学びに向かい解決に自ら、また集団で取り組む子どもたちの姿を求めて、組織的に具体的に実践的に継続的に取り組む基礎ができた。

△確かな基礎学力。朝学や個別支援の充実。

△「考える力」を育むための更に具体的な支援について。また、それを見とる方法を深めていきたい。

△操作活動や伝え合う活動については、適切に効果的に取り入れて行く。ペア活動や小集団活動についてメリットとデメリットがある。発達段階に応じた真の学び合いを作り出せるようにする。

III 成果物

- ・算数アンケート(低学年 高学年ごと 2回の意識調査と分析)
- ・自主学習メニュー(低中高で作成)
- ・研究授業指導案
- ・実践事例指導案

(研究主任 金子 佐由美)